

J S P O は、なぜ「プレーヤーズセンターード」を提唱するのか

現在、J S P O(日本スポーツ協会)が推し進める概念が、「プレーヤーを中心とした『プレーヤーズセンターード』」。すなわち、「プレーヤーを取り巻くアントラージュ(プレーヤーを支援する関係者)自身も、それぞれのWell-being(良好・幸福な状態)をめざしながら、プレーヤーをサポートしていく」という考え方。あらためて問う、「プレーヤーズセンターード」な指導、その意味とは……。

PART 1 それは、まさに必然だった プレーヤーズセンターード推進の理由

プレーヤーズセンターードのことばが使われるようになつたのは、つい最近のことであるが、ならばその期待、なぜ、にわかに高まってきたのか。J S P O公認スポーツ指導者制度改定にも中心となつて携わるスポーツ社会学者に聞いた。

求められるのは、 全体が高まる「場」

「プレーヤーズセンターード」……それは「見、簡単なことに思われると広い。むろんプレーヤーと指導者の関係も含め、あらためて「場」全体を見直し、そして場に関わるすべての人が高まつていく。すなわち、みんなが高まる場を構築する」といふ、それが、まったく別次元のワードです。

あるいは、プレーヤーと指導者がともに高まる……そんなイメージを持たれるかもしれません。しかし、突き詰めると事はもっと広い。むろんプレーヤーと指導者の関係も含め、あらためて「場」全体を見直し、そして場に関わるすべての人が高まつていく。すなわち、みんなが高まる場を構築する

という、それは、まったく別次元のワードです。

プレーヤーが1番で、それを周囲が支えるというプレーヤーズセンターードです。

プレーヤーが1番で、それを周囲が支えるというプレーヤーズセンターードです。

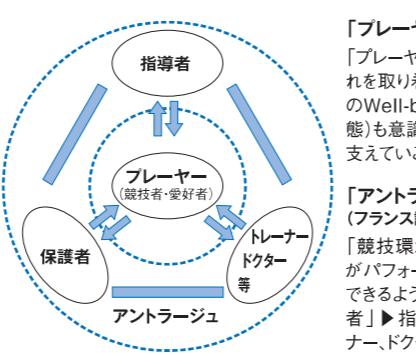


解説／松尾哲矢

立教大学コミュニティ福祉学部
スポーツウエルネス学科教授、
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者
育成事業推進プラン戦略会議座長、
本誌編集部会副部会長

社会現象としてのスポーツに対して社会学的にアプローチし、戦後日本のスポーツ界における「場」の構造変動と文化的な再生産を主要研究。日本のスポーツ政策の動向、生涯スポーツシステムの動向などが研究課題。博士(教育学)。主な著書に『アスリートを育てる「場」の社会学』(青弓社)ほか。

■プレーヤーズセンターード全体像(松尾、2019)



「プレーヤーズセンターード」
「プレーヤーを中心にながら、それを取り巻くアントラージュ自身のWell-being(良好・幸福な状態)も意識しながら、プレーヤーを支えていく考え方」

「アントラージュ」
(フランス語:取り巻き、環境)
「競技環境を整備し、アスリートがパフォーマンスを最大限発揮できるように連携協力する関係者」▶指導者、保護者、トレーナー、ドクター等

【全体が高まる・成長する】

■スポーツを愛するすべての人へ ～伊藤雅俊JSPO会長メッセージ(2018年7月18日)～

プレーヤーズセンターード

スポーツの主役はプレーヤーです。スポーツ指導者自身の考えを一方的にプレーヤーに伝えるのではなく、気づきを促し、成長に導いていくコーチングを目指しましょう。

(一部抜粋)

スポーツを愛するすべての人が「場」を形成する当事者として役割を分担しながら、最適なスポーツの「場」を創っていくために行動しましょう。

(一部抜粋)

その背景には、「11年に「スポーツ宣言日本」を発しながら暴力が絶えず、13年には時の文部科学大臣がスポーツ指導時の暴力根絶に言及。宣言は出たものの、その考えが必ずしも現場に浸透しきつていなかった現実がありました。

「スポーツ宣言日本」、それは大まかに時代を変える分岐点でした。それまでスポーツは、教育のためのスポーツの文化的特性が十分に尊重・発揮されることを第一の

制度不足の限界でもありました。でもありました。

目的として、その達成によつて社会に貢献すると宣言しました。

スポーツのいわば独立宣言。覚悟を持つてのものでしたが、スポーツの根幹を壊す暴力が見られる現実があつた。

どうすればいいのか。第一は、指導者です。J S P O公認スポーツ

指導者制度は、1965年のスポーツトレーナー養成開始から50年以上が経過し、制度改定で専門的指導者制度が広がり、専門分化が進む一方、各指導者が学び続け、高まつていける仕組みが不十分でした。暴力根絶に向

けた意識はもとより、指導の質を担保する核となる学び、そして質の向上を図れる継続的な学び、世界基準の学びの保障が問われるようになります。

そして、2019年度の制度改定(※3)において、学びの核となる「モデル・コア・カリキュラム」と初学者の指導者からより専門的な指導者への階梯的な指導者制度の導入に至りました。

この問いは、指導者にとどまりません。プレーヤーを中心には保護者、ドクターほか、関わる人すべてが学び、高まることがで暴力の根絶のみならず、スポーツ宣言日本がめざすスポーツの価値で社会を変えることは難しい。

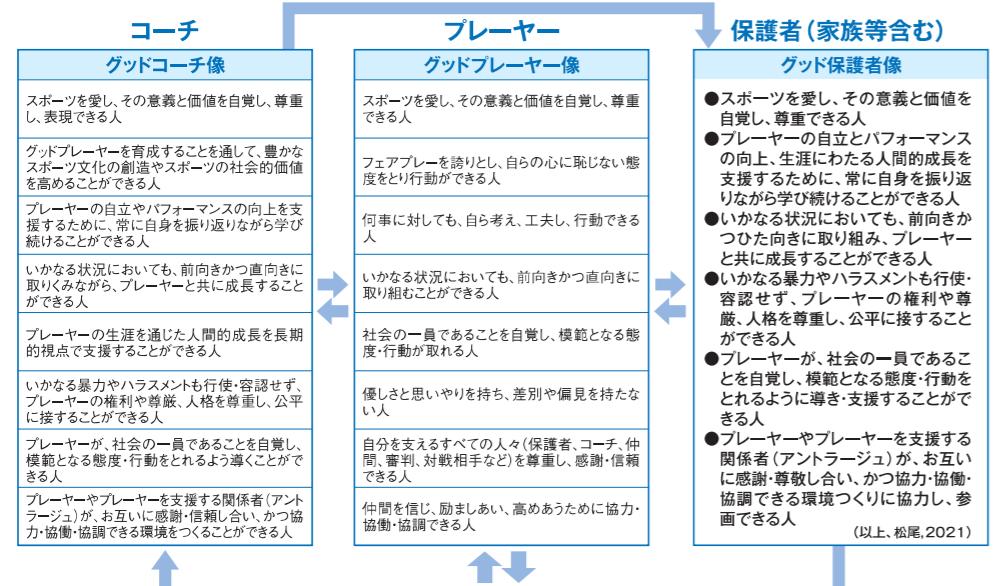
本年度、J S P Oがスタートコーチ(スポーツ少年団)養成を始めた。本資格の受講者のなかには保護者も含まれており、保護者の指導者としての資質の獲得と、ゲッド保護者との育成が視野に入つているのです。

さて、上意下達、経験に基づく指導、ともすると徒弟関係的な構図にもあつた従前の指導者とプレーヤーの関係に決別し、新しい時代にふさわしいコーチングが

指導者に求められるようになる

ポジティブにスパイ럴!

■「プレーヤーズセンターード」ポジティブスパイ럴[好循環 連鎖的高まり](松尾、2021)



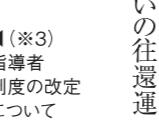
平成27年度スポーツ庁委託事業
【コーチング・インベーション推進事業】
平成27年度コーチ育成のための
「モデル・コア・カリキュラム」作成事業報告書
p.35 (公財)日本体育協会



◀(※1)
スポーツ宣言日本



◀(※2)
会長メッセージ



◀(※3)
指導者制度の改定について

動(ループ)的な要素はあります
が、もっと大きな場の視点で捉え、
図示したようにプレーヤー、アン
タラージュとともにグッドな像を
めざして高まっていく、そのスパイ
ラルな関係こそ重要です。

例えば、「フェアプレーのほうが
カッコいい! 気持ちいいじゃない」、
場に携わるすべての者が場をつく
るメンバーであることを自覚し、
そうした共通の視点を持つ。そし
て、プレーヤーもアントラージュも、
あたかも映画づくりの俳優やス
タッフのよう、誰一人として欠か
せない存在となる。

そこには、売り手よし、買い手よ
し、世間よし、近江商人の経営理
念である三方よしの考え方がある
要、私はそんなふうに思います。

■スポーツの「場」を高める各プレーヤーやアントラージュ
(指導者、保護者、ドクター・トレーナー、審判等)の学びと成長
(松尾、2021)

エゴを我慢、ではなく 三方よしを考える

三方よしを肌で理解するには、
公的制度の「ふるさと納税」が参
考になり、最近のヒット(笑)と私
は考えています。納税者、自治体、
そして生産者と、すべてが潤う仕
組みですが、成功している政策を
見ると、この三方よしの考えが取
り入れられているものです。

誰かの我慢あっての構図ではう
まくかない。すべての人がウイン
ウインであり、それが全体的にぐ
るぐる回るような関係。三方よし
の結果、関わったみんなが成長
していると思える環境を築く。す
なわちそれがWell-being(良
好・幸福な状態)に。

もちろん、簡単ではありません
。しかしながら、プレーヤーから
言わたることが指導者の学びにつ
ながる、傍観者だった保護者が子
どもにスポーツの魅力を教えられ
夢中になる……気がつけば自らの
成長を感じていた、そんなケースに
思い当たることはありますか。

わが子に活躍してほしい、スポ
ンサードしているプレーヤーに成
果を見せてほしい、もっともっと教
えたい……人間、誰しもエゴはあ
るもの。それはもちろん否定でき
ないし、我慢すればうまくいかな
い。だから、視点を変えてほしい。
か。フェアプレーのよさって、互いに
リスペクトするって、いったい何なの
か。エゴによって、こうしたスポーツ
の価値を壊してしまって、果たし
ていいものでしょうか。

プレーヤーが、指導者が、保護
者が高まる。三方よしに落とし込
めれば社会も、きっとよくなる。
い。だから、視点を変えてほしい。
スポーツの価値はどこにあるの
か。エゴによって、こうしたスポーツ
の価値を壊してしまって、果たし
ていいものでしょうか。

プレーヤーが、指導者が、保護
者が高まる。三つよしに落とし込
めれば社会も、きっとよくなる。

感度が上がっているけど、気づ
てないこともある。高齢者だから、
かわいそうでも偉いわけでもな
い。障がい者スポーツと言われる競
技の「障がい者」のことばも気づき
が深まれば、やがて必要な時代
がくるでしょう。

感度が高まり、互いに理解し、
スポーツがよくなり、社会がよく
なる。ただし、感度だけで個人が
主張し始めれば、ギスギスした関
係になることは防げない。ゆえに、
自制の作法が併せて問われる。欲
望や感情を制御し、相手へのリス
ペクト、寛容の精神を忘れない。

感度が高まり、互いに理解し、
スポーツがよくなり、社会がよく
なる。ただし、感度だけで個人が
主張し始めれば、ギスギスした関
係になることは防げない。ゆえに、
自制の作法が併せて問われる。欲
望や感情を制御し、相手へのリス
ペクト、寛容の精神を忘れない。

感度が高まり、互いに理解し、
スポーツがよくなり、社会がよく
なる。ただし、感度だけで個人が
主張し始めれば、ギスギスした関
係になることは防げない。ゆえに、
自制の作法が併せて問われる。欲
望や感情を制御し、相手へのリス
ペクト、寛容の精神を忘れない。

上から目線だったかな、そんなふ
うに反省することがあります。つ
い先日、大学生を2グループに分
けて運動する機会があり、片方
に女性が目立ったので、「バランス
的に、もうちょっとこうちに女性が
……」と言った瞬間、ある男子学
生が、「先生、今どき、まだそんな
ことを言うんですか」と。そのセン
スに驚きました。

スに驚きました。
れば誰から学べばいいのか……
「多くを問う者は多くを学ぶ」
(英: 謙)。一流といわれる指導者は
どう自らシビアに評価し、学んでい
る。常に振り返り、学ぶ姿勢、
それは間違いなくプレーヤーのみ
ならず、自分の成長につながるはず
です。

そして、傾聴の姿勢を持つ、そ
れこそ指導の限界のトピックを開
く可能性にきつとなるはず。

指導者は、閉鎖的なスポーツの
場では、周りからはあがめられる
もの。でも、それで本当にいいので
しょうか。みんながよくなる、と
もに創る……そのまなざしを心
に置く。「あの保護者のお母さん
たちは楽しいのか」、「あの補欠の
選手、端っこで遊んでいるけど、何
かやり方はないのか」。そうした
ことにも心を配り、取り組んでみ
る。勇気がいるでしょう、でも、そ
れこそ全体が変わる当たり前の一
歩かもしれません。

傾聴が切り開く 指導の限界

とりわけ指導者の皆さんに
は、今までいいか、自身に問い合わせ
を発し続けてほしいと思います。
自分がどこをめざしているのか。
高まっているのか。もし足りなけ
実もありました。

社会のニーズとはいえ、誰かの我
たい、結果を出したいという指導
者の満足のために不適切な行為
や指示・命令型の指導があつたか
もしれません。その方では、「ウイ
ニングセカンド」が置き去りにされ
、「プレーヤーこそ1番」
がかつ歩し始めた現
実もありました。

PART 2 「プレーヤーズセンター」と何が違う?



解説／伊藤雅充

日本体育大学体育学部体育学科教授
バイオメカニクス、運動生理学的手法を用いた人の身体運動の基礎的研究、およびパフォーマンス分析はじめ競技力向上を中心とした研究。現在は「効果的なコーチング」「効果的なコーチ教育」に興味を持ち、自然科学的手法は当然、質的分析も併せて研究に取り組む。国際コーチングエクセレンス評議会科学委員会委員。博士(学術)。

「じゃあ、セカンドは?」

「アスリートファースト」「プレー
ヤーズファースト」、いずれも横文
字ですが、国際的な場面ではあま
り見かけません。

「ファースト」の文字があるため
使われていたもの
が、いつしか後半が
欠落。世間でも○
は「の次」の文脈で
とばが散見される
ように、人の優先順
位を比較するよう
な捉え方となり、誤
解を生むようになっ
ていました。

数年前、仕事(教
師)と生徒、どちら
がファーストかの議論があつたこ
とも思い出されます。生徒とわが
子の卒業式が重なり、どちらを優
先すべきか。生徒優先で考え
れば、教師の家族にしてみれば、そ
れは社会のエゴという気持ちにも
なるでしょう。

「ファーストがあると、誰かがセカ
ンドになる。そうではなく、互いが
互いを認め合う。すべてがブレー
ヤー優先ではなく、指導者やアン
トランジュ、その家族も、それぞれ
の人生を豊かにできる誰も不幸
にならない考え方。そのうえで、
眞ん中にプレーヤーを置き、アン
トランジュ自身はプレーヤーの成
長のために何ができるか、バランス
よく考える。

プレーヤーズセンター……そ
の根底には、プレーヤーを人間的
により成長させるという概念が
あります。

がファーストかの議論があつたこ
とも思い出されます。生徒とわが
子の卒業式が重なり、どちらを優
先すべきか。生徒優先で考え
れば、教師の家族にしてみれば、そ
れは社会のエゴという気持ちにも
なるでしょう。

「ファーストがあると、誰かがセカ
ンドになる。そうではなく、互いが
互いを認め合う。すべてがブレー
ヤー優先ではなく、指導者やアン
トランジュ、その家族も、それぞれ
の人生を豊かにできる誰も不幸
にならない考え方。そのうえで、
眞ん中にプレーヤーを置き、アン
トランジュ自身はプレーヤーの成
長のために何ができるか、バランス
よく考える。

プレーヤーズセンター……そ
の根底には、プレーヤーを人間的
により成長させるという概念が
あります。

昇華された概念、 プレーヤーズセンター

これまでには、指導者の自己犠
牲を美談と捉える風潮もありま
した。私の学生(プレーヤー)時代
にも、土曜も日曜も毎日、指導者
がその場で見てくれる。「これ正
常? 指導者の家族も本当に応援
もすると、あれ、今のはちょっと
かなりません。それでも、まだま
だ私たちが気づいてない偏見や思
い込みはたくさんあります。

かくいう私も、大学院生に研究
指導する機会がありますが、と
もすると、「あれ、今のはちょっと
かなりません。それでも、まだま
だ私たちが気づいてない偏見や思
い込みはたくさんあります。

かくいう私も、大学院生に研究
指導する機会がありますが、と
もすると、「あれ、今のはちょっと
かなりません。それでも、まだま
だ私たちが気づいてない偏見や思
い込みはたくさんあります。

かくいう私も、大学院生に研究
指導する機会がありますが、と
もすると、「あれ、今のはちょっと
かなりません。それでも、まだま
だ私たちが気づいてない偏見や思
い込みはたくさんあります。

突つ走りすぎ、コーチが置いていか
れる現状が生まれました。

「選手のため」と言いながら、勝ち
たい、結果を出したいたという指導
者の満足のために不適切な行為
や指示・命令型の指導があつたか
もしれません。その方では、「ウイ
ニングセカンド」が置き去りにされ
、「プレーヤーこそ1番」
がかつ歩し始めた現
実もありました。

プレーヤーズセンター……そ
の根底には、プレーヤーを人間的
により成長させるという概念が
あります。

わが子もまた別の人間

さて、ICCE(国際コーチング
エクセレンス評議会)は、国際社
会では、プレーヤーズセンターは
コーチング概念の基本で、そこに議
論の余地はありません。プレーヤー
が成長し、学ぶことにさまざま
な歩みもします。

バイオメカニクス、運動生理学的手法を用
いた人の身体運動の基礎的研究、および
パフォーマンス分析はじめ競技力向上を主
題とした研究。現在は「効果的なコーチング」
「効果的なコーチ教育」に興味を持ち、自然科
学的手法は当然、質的分析も併せて研究に
取り組む。国際コーチングエクセレンス評
議会科学委員会委員。博士(学術)。

は、もつと昇華させた考
え方ですが、プレーヤーズセン
ターコーチの脱却からプレ
ーヤーズセンターが置き去りにされ
、『プレーヤーこそ1番』
がかつ歩し始めた現
実もありました。

は、もつと昇華させた考
え方ですが、プレーヤーズセン
ターコーチの脱却からプレ
ーヤーズセンターが置き去りにされ
、『プレーヤーこそ1番』
がかつ歩し始めた現
実もありました。

